

# キウイフルーツ花粉の殺菌処理技術

抗生剤「アグリマイシン100」や強酸性電解水で花粉に付着する細菌を減らすことができる

## 1 花粉の殺菌処理に使った資材



アグリマイシン100



強酸性電解水

- ①液体増量剤に1000倍濃度となるようアグリマイシンを添加し花粉を殺菌する。
- ②強酸性電解水で花粉を洗浄し殺菌する。

## 2 花粉の発芽率に及ぼす影響

試験区	発芽率
アグリマイシン	50.8 ± 3.4
強酸性電解水	39.9 ± 3.0
対照区	60.7 ± 1.1

花粉発芽への影響を調査したところ、アグリマイシン処理では発芽率をほぼ維持できるが、強酸性電解水は発芽率が低下する傾向であった。

## 3 花粉に付着する一般細菌の殺菌効果

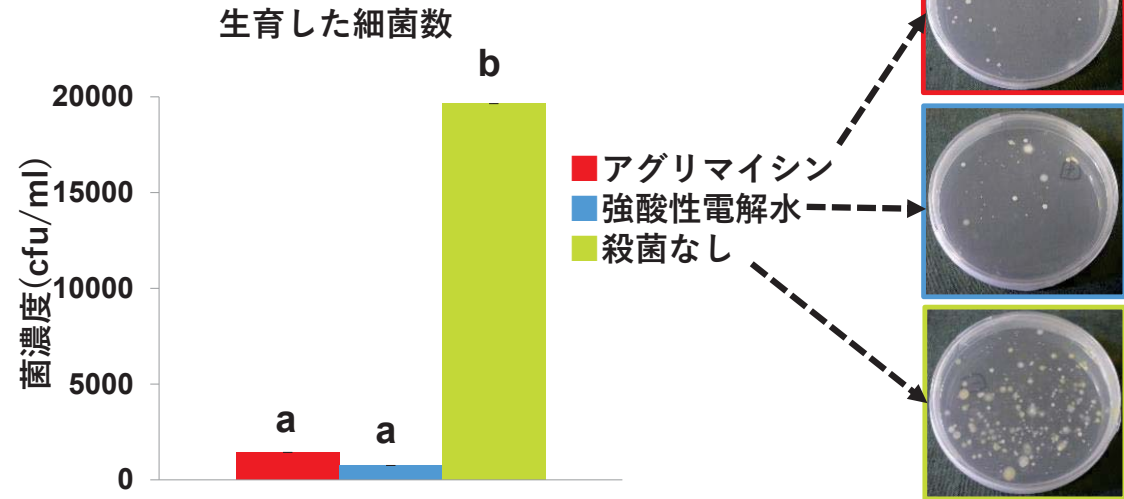


図 殺菌処理後の花粉に付着する一般細菌の濃度

注) Tukeyの多重検定, 異なる英小文字間は5%水準で有意差あり

## 4 まとめ

○アグリマイシンによる花粉殺菌処理は、花粉の発芽率をほぼ維持しながら花粉に付着する一般細菌を減らすことができ、**応急的な殺菌処理技術として有効**と考えられた。  
**※ただし、抗生剤の効果低下を防ぐため過度な使用は避ける。**

○強酸性電解水による花粉殺菌処理は、花粉の発芽率の低下が認められたが、花粉に付着する一般殺菌を減らす効果は認められた。